

指導者講座

連載第14回 地図を作ろう(4: O-cad で簡単な O-map 作成)

村越 真

O-cad の ver6 (フリーウェア) による O-map 作成の総仕上げとして、初心者向け大会用の 4 色刷 O-map を作成する。本格的な調査は時間とスキルも要求されるが、大縮尺の原図を使えば、調査も最小限で完了。

はじめに

今回は、ベースマップとして地形図等を使って、それをなるべく生かすことで最小限の作図による地図を作成したが、O-cad を使って地図を作る最終回として、今回は本格的な地図を作ろう。もちろん本格的といっても、市街地郊外で多くの道があるトレインを 4 色 (通行可能度なし) で作図するものである。森の中は使わない一般市民向け大会という前提である。経験上これでも初心者には十分な地図となる。

ベースに使うのは 1:2500 や 1:5000 の都市計画図などである。このスケールの地図なら、実際にある道はほとんど出ているので、それをトレースし、現地で簡単な確認をすれば済む。これらの地図のほとんどは 1 色刷りなので、地図を見慣れていないものにとってはどれが等高線でどれが道かを判別するのが難しい。そういう意味でもたとえ修正はほとんどないにしても、O-cad で修正作図して多色刷りにする意義があるのだ。

原図の入手と調査の準備

たいいていの自治体で 1:5000 等の都市計画図を作成している。都市計画課あるいはそれに相当する部署にいけば 1 枚 200-300 円程度で頒布してくれる。1 枚の大きさが机くらいあるので、ほぼ 3km×4km くらいをカバーしている。運がよければ 1 枚で十分事足りる。調査に必要なのは、通常の O-map の作成と一緒である。調査板、トレーシングフィルム、色鉛筆。調査板は 3mm 厚程度のアクリルボードがよい。また色鉛筆は、黒、赤、青があれば十分であろう。筆者は 0.5mm の 3 色シャープペンシルを使っている。赤・青・黒と 3 本持っている、いつの間にはどれ

か一本を落としてしまうことがよくあるからだ。黒だけは 0.5mm は太すぎるので、5H の鉛筆をナイフで削って使っている。

調査板の上に原図を貼り、その上にトレーシングフィルムを張り、その上に調査内容を描き込んでいく。



調査に利用する原図。これは 1:10000 の都市計画図だが、建物、道ともにほとんどそのままでも使えそうなくらいの情報量である。ただし道は途中でとぎれている場所があったり、建物が新しくなっていたりと、修正が必要な箇所がある。

調査

基本的には森に入らない初心者のオリエンテーリングを前提にすれば、建物と道、および耕作地、民家の敷地が正確であれば十分であろう。1:5000 1:10000 都市計画図には、建物と道 (森の中をのぞく) 民家に関しては新しくできたもの以外は、基本的にはほとんど

ど原図に記載されている。調査時間のほとんどは実際にあるかどうかの確認と、道の等級分け、耕作地なのか民家の敷地なのかの識別に当てられる。図に示したのは、筆者が 7 年の 4 月に行なった市民向け大会の地図である。ほぼ 1km×2.5km の範囲だが、調査は 1 日で終わった。

作図

作図に先だって、調査内容を記入したフィールドコピーをスキャナーで取り込む必要がある。300dpi 以上であればよいが、300dpi で十分であろう。これに適当な名前をつけて保存するが、O-cad の ver6 の場合は前回も指摘したように下絵にビットマップ (bmp) 形式しか許していないので、bmp で保存する必要がある。Ver7 以降であれば jpg でもよい。筆者の場合はファイルに日付名を入れているので、たとえば 070823.bmp というファイル名となる。

この下絵を、ツールバーの Options から「下絵を開く」(Open template) で開いて、それをなぞっていく訳である。前回と違い、今回は必要な物は全てなぞって描くので、時間はかかるだろう。調査は 1 日で終わっているが、作図には数日かかっている。

図 3 が作図途中の地図、図 4 が完成した地図の該当部分である。地図の周囲には図 5 のように凡例等も書き入れて仕上げる。図のようにパンチ欄もつけてしまうと配布物が減るというメリットがある。ただし集計の時、切り離



原図をもとに調査結果を記入したフィールドコピー。初級者向け大会であれば、この程度の調査で十分大会が開ける

すか、地図ごと一度回収するという面倒がある。まあここはセパレートのチェックカードを使うのと一長一短であらう。



図3：フィールドコピーを元に、一部を作画した状態のO-map。



図4：完成したO-map。森の中(白いエリア)はスケッチで可能な等高線の修正しかしていないが、全体としてはそれらしい仕上がりになっている。

初心者は必ずしも地図の正確さを評価できる訳ではない。しかし、正確な地図はスポーツとしてのオリエンタリングの基本であり、その前提があつてこそ、地図を読む面白さもアピールすることができる。その意味でも、初心者向けで、全ての情報が出ている訳ではないとしても、記載している情報については正確な地図の提供を心がけたい。

今回紹介した地図を使ったスコアオリエンタリングの大会は、2007年4月に開かれた。地元のスーツショップにピラ配布を依頼したり、近くの小学校の高学年全員にピラをまいた。新聞記事とラジオにも二つの番組で取り上げられた。

結果として、4割近くが知人から聞いて参加した。またピラを見て来た人が27.8%、新聞が12%であった。ウェブ/メールは10%であるが、経験者が多いのでNPOのウェブが村越のメールを見ていられると思われる。また小学生ではピラを見てきた割合がやや高く34%であった。意外なのはラジオはかなり視聴率が高いローカル番組だったにもかかわらず0だった点である。

感想としては、「地図の勉強になった」「なかなか子どもと歩く時がないのでよい機会だった」「探検(冒険)みたいで楽しかった」「意識しないうちに歩けた。良い運動気分転換になった。」「自然が沢山。ゲーム性。健康。頭と身体の運動。」といった内容が得られ、概ね好評であった。

0m 500m

共催：NPO法人M-nop 静岡県オリエンタリングクラブ
協賛：ザ・ノース・フェイス スポーツショップアラジン

清水区 2007. 4. 8. 兼県民大会 パークオリエンタリング大会

太い道	———	車道	———
狭い道	- - - - -	通れないフェンス	———
建物・温室	■	通れない崖・通れる崖	———
池と川	~~~~~	等高線(山や谷)	~~~~~
荒地・草地(グラウンド等)	●●●		
果樹園・畑(入らないと)	●●●		
民家の畑(入らないと)	●●●		

なまえ			
クラス	ゴール	時	分
	スタート	時	分
得点	-減点	=総合点	

図5：初級者向け地図の整飾の例。地図記号としては、O-mapの規程通りに使うと、初級者にはかなり煩雑すぎるものになってしまうので、この程度の基本記号に、墓地や石碑を加える程度が適当だろう。